

半導体漫遊記

湯之上隆

11月19日の午後、表面技術協会主催の講演会にて『半導体メモリ大爆発の時代』の題目で講演した。筆者のほかに3件の講演があったが、その中で神戸国際大学経済学部の中村智彦教授の『サービス化する製造業』の講演が大変面白かったのだ、その内容を紹介したい。

ある外食産業の幹部によれば、ここ数年、開店前から行列ができるような東京都内の人気とんかつ屋が次々と廃業しているという。実際に食べに行ってみると、「美味しいとんかつ定食が600〜800円と格安。本来なら1000〜1500円位取らないと儲けが

残らないという水準である。なぜ、格安で美味しい人気のとんかつ屋が廃業していくのか？ それらのとんかつ屋には重荷になる。

格安で美味しい「とんかつ屋」の悲劇

「零細」廃業の2020年問題

世代交代の時期になる。若い現役世代にはとても生活をしていくだけの収入を得ることができない。そうやってから急に値段を大幅に上げるなどはできないし、設備更新などは多額の費用がかかるので、後継者にとって「美味しく格安など品を作ることはできない。會長逮捕で注目されている自動車産業では、完成車を頂点として、その下に下請け企業が4階層あり、これらが巨大なピラミッド構造を形成している。そしてピラミッドの下層に行くほど、零細な部品企業が多く、それらが「美味しく格安など品質な部品を作っている」とも、買収しようとする企業は現れない。なぜなら、買収しても急に値上げはできないし、設備投資は負担が重く、そもそも技術の伝承が難しく、同じような高性能・高品質な部品を作ることができない。

の零細企業があると思われ。もし、それら零細企業が「美味しく格安なとんかつ屋」と同じ問題を抱えているとしたら、団塊の世代が70歳になる2020年に大変なことが起きる可能性がある。東芝メモリもシャープも、装置メーカーの下請け、そのまた下請けの中小零細企業が、どのような経営状態になっているかを可及的速やかに調査（長）

は、既に減価償却の終わった古い設備、ローンを払い終えた自社店舗、そして年金をもらいながら夫婦で切り盛りしている特徴がある。ある意味、年金が経営継続への補助金のようになっているわけだ。

これは、とんかつ屋だけに限った問題ではない。例えば、ゴーン

「外食産業の幹部も夫婦二人で一人分の給与しかなく、それやと可能になっていような低価格がウリでは、いくら有名でものれん代を出してまで買収する意味はあまりない」と見放す。これは、とんかつ屋でも、誰も後継者はおらず廃業するしかない。格安で高性能・高

2020年に団塊の世代が70歳(後期高齢者)になる

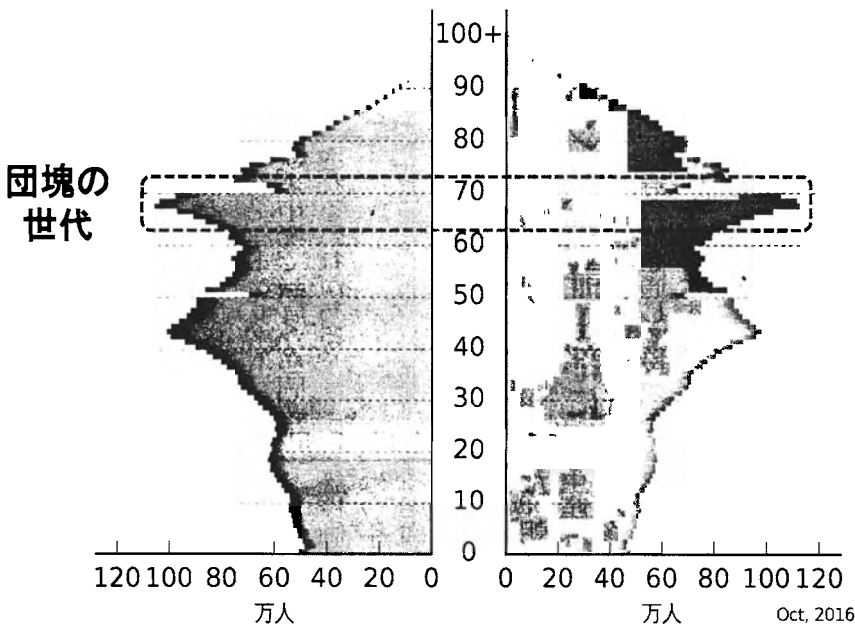


図1 日本の人口ピラミッド

出所:総務省統計局